

旧校舎の思い出を形に残す

柳井小学校 卒業生有志 古木材を使って机と椅子作製

柳井小学校の卒業生有志でつくる「薫木会」(武居弘和代表、九人)が、昨年春に解体された同校旧校舎の古木材を再活用して学習机と椅子を作製した。

十九日、武居代表ら四人が同校を訪れ、櫻井済美校長に手渡した。

耐震診断結果で不適格となり新校舎建設に伴い、昭和三十二年から三十六年の間に建設された第一校舎と普通教室棟の二校舎が取り壊されることを知った武居代表(42・洋品店経営)が、卒業生や有志らを集めて薫木会を結成。

思い出の詰まった校舎を形として残そうと、昨年三月二十九日に解体される旧校舎の校長室の床板や三階図書室の据え付け本棚、音楽室のステージ板、各階にある窓枠や引き違い戸などの古木材を二トントラック一台分採取した。

その後、有志メンバーでアイデアを出し合い、「昔の匂いがするものを作って、子供たちに使ってもらいたい」との思いから、木製の机と椅子の作製を考案。メンバーの一人、弘埜誠さん(34・株)ヒロノハウジング(部長)が、校長室の床板(さくらの木)を再加工して完成させた。

引き出し付きの机は高さ六十センチ、幅六十五センチ、奥行き五十七センチ。椅子は高さ三十七センチで旧図書室にあった低学年用と同じサイズのものとした。

机と椅子は、新校舎の図書室に設置され、受け取った櫻井校長は「ものを大切にすると、卒業生の熱い思いが伝わり、図書室を利用する子供たちからの評判も高い。新校舎も完成し、改めて校舎を大切に使うことの重要性を学ぶことができた」と感謝の言葉を述べていた。

武居代表は「(校舎が)なくなってしまうら終わりだが、みんなの思い出が詰まった校舎を残すことで、今までを知らない子供たちに受け継いでもらうことができる。新校舎同様に大切に使うしてほしい」と話していた。

今後、薫木会では残った床材で木工小物などを作製し、PTAの協力を得て、秋のバザーなどで販売することになっている。

薫木会メンバーは次の通り。(敬称略)

林政雄、林泰弘、木阪泰之、片寄薫、弘埜誠、武居弘和、松垣圭子、林孝康、友座大二郎

(写真は櫻井校長に机と椅子を寄贈した薫木会メンバー)



特別金利定期預金を発売

東山口信用金庫 由宇支店の新装開店記念

柳井町中尺二丁目一本一明預金の重負は「スーパースター」の適用が受けられる人

けるスーパー定期またはスーパードラッグの店頭表示の利率を適用する。

特約事項として、マル

ヤング優勝、高井さんがMVP

伊陸クラブ 第33回親睦軟式野球大会

伊陸ひむろクラブボール企画(山本達也会長主催)の第三十三回親睦軟式野球大会が十一日、柳井市民球場で行われた。

青少年の健全育成と参加者同士の親睦を目的とした大会は、シニア、ヤ

なお、MVPには、高井博之さん(ヤング)が選ばれた。このほか、杉村孝臣さん(ジュニア)が敢闘賞に、山崎寛之さん(ジュニア)と藤森透さん(ヤング)、松重和成さん(シニア)が優秀

平生署上関駐

バリアフリー

平生警察署(藤田誠署長)の上関警察官駐在所がこのほど完成し、十六日、上関町長島と同駐在所前で開所式典が行われた。

式典で藤田署長は「二十三年間経過し、老朽化が激しいため新築することにいたしました。切妻の屋根で目立つようにし、周辺との調和に配慮しました。駐車場を三分設計、バリアフリーにも配慮。応接コーナーやトイレなど、住民が気軽に立ち寄れるようにしました」とあいさつした。

同駐在所に勤務する新藤常夫巡査部長(52)は「このような立派な駐

ジュニアの抽選勝ち

【ジュ】吉村、藤中山崎
【シ】藤重—浜田
【ユ】村田(ジュ)

▼第2試合

ヤング203010 6
シニア000000 0

【ヤ】高井、兼深—白石
【シ】藤重、吉村、藤重—浜田
【秋】秋森(シ)日出(ヤ)

第3試合

ジュニア
213000
30160×
106

【ジュ】山近、藤中—山崎
【ヤ】岡、高井、田村—白石
【高井(ヤ)】
(写真は優勝したヤングチームメンバー)